

2018
No.91

[2018年12月~2019年2月号]

青山学院大学

<https://www.aoyama.ac.jp/>



AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS



特集

ボランティアセンター活動報告

海外留学

青学から世界へ、留学の夢をサポート

Topics

地球社会共生学部 岡部篤行教授が国際地理学連合「桂冠名誉賞」を受賞

AGU Lecture

地球社会共生学部「コミュニケーション、メディア、言語習得、言語政策、教育政策」

地球社会共生学部 菊池ゼミ

Aoyama Gakuin since 1874



①ワークショップの様子(食品ロスプログラム) ②講演会の様子(食品ロスプログラム) ③学童保育(塩竈プログラム)



④共に活動した東海大学の学生と阿蘇五岳を背景に(熊本プログラム) ⑤高校でのディベートの授業(インドネシアプログラム) ⑥中学校での教室の壁塗装(インドネシアプログラム)

特集 ボランティアセンター活動報告

ボランティアセンターは、青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現する人物、サーバント・リーダーの育成に向け、ボランティア活動を促進させる目的で2016年10月に設立されました。この夏の学生たちの活動を報告します。

学生スタッフRoote ボランティア活動報告

01 福祉プログラム

活動日：2018年6月24日(日)
参加人数：7名

荒嶋 万理奈さん 総合文化政策学部 総合文化政策学科2年 東京・私立青山学院高等部出身



えびす青年教室での活動

福祉プログラムは、知的障がい者の方と一緒に活動し、知的障がいに対する理解を深め、互いに成長を目指す活動です。渋谷区教育委員会主催の「えびす青年教室」の運営に携わったり、スタッフとして参加しています。また、青学生が知的障がい者に対して抱えている、接し方や距離感といった課題を払拭できたらという思いを持って活動しています。

料理や工作をしながら共に1日過ごすことで、知的障がい者の方の行動力やコミュニティが広がると感じました。今後は、活動の幅を増やすことや、障がいのある方だけではなく、渋谷区の福祉問題におけるさまざまな面に目を向けて取り組んでいきたいです。

02 食品ロスプログラム

活動日：2018年7月4日(水)
参加人数：14名

秋山 桃子さん 教育人間科学部 心理学科3年 滋賀県立守山高等学校出身



ワークショップ後、松本氏を囲んで

「食品ロスSOS～食品ロスと貧困について考える～」と題して講演会を実施しました。食品ロス改善のための活動をされているNPO法人シェア・マインド代表理事の松本靖子氏をお招きし、お話の後にはワークショップも行いました。

近年、食品ロス削減に向けた活動が多様化している一方で「食品ロス」という言葉自体は普及していない現状です。しかし、日本で発生している食品ロスの、実に半分は企業ではなく家庭からのものです。学生一人一人がもっと身近な問題として捉えることが重要であると私たちは考えます。

まだおいしく食べられるものがおいしく消費される社会を目指し、より多くの学生が魅力を感じられる活動を展開していきたいです。

03 陸前高田プログラム

活動期間：2018年8月3日(金)～11日(土・祝)
参加人数：9名

小林 佳奈子さん 文学部 比較芸術学科2年 宮城県立宮城野高等学校出身



あすなろホームでの活動

陸前高田プログラムは、障がいのある方との交流を目的とした福祉支援と、仮設住宅や災害公営住宅、その周辺にお住まいの方々との「お茶っこ」での交流を目的としたコミュニティ活性化支援の2つを軸とし、さまざまな活動を通して陸前高田の被害の大きさと、東日本大震災から7年経った陸前高田の今を学んできました。

震災から7年が経ち、各地でさまざまな自然災害が起こり、震災が風化されつつある今、現地での体験を通して、自身が置かれている環境について、改めて考えるきっかけを持つことができました。今後は、より深く現地の方々との交流ができるような活動を考えていきます。

04 塩竈プログラム

活動期間：2018年8月11日(土・祝)～18日(土) (第一陣)、8月18日(土)～23日(木) (第二陣)、9月9日(日)
参加人数：39名

北原 佳惟斗さん 理工学部 経営システム工学科2年 東京・私立穎明館高等学校出身



浦戸諸島寒風沢島での草刈り

大学生だからこそ必要とされることに着目し、地域活性化を目的に教育支援(学童保育、サマースクール)と経済支援(浦戸諸島での第一次産業のお手伝い、PRマップ作成)に分かれて活動を行いました。活動を終え、市民の方々から「ありがとう」と感謝をしていただいたのと同時に、市民の方々の「笑顔」が増えたのではないかと思います。また青学生にとっても、塩竈での「体験や経験」は、都会では行えない貴重なものばかりでした。今後の春の活動に向けては、現地の方とのコミュニケーションを大切にしながら、現地のニーズの確認を再度行い、活動をより良いものにしていきたいと考えています。

05 熊本プログラム

活動期間：2018年8月6日(月)～10日(金) (観光プロジェクト)、8月11日(土・祝)～17日(金) (農業プロジェクト)
参加人数：20名

吉年 由加里さん 国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科2年 福岡・私立福岡大学附属大濠高等学校出身

竹内 ゆきのさん 文学部 日本文学科2年 埼玉県立川越女子高等学校出身



機械を使用したトマトの分別の様子

熊本地震による被害に遭った熊本県南阿蘇村で主産業である観光業、農業の支援を行いました。観光支援では南阿蘇村と周辺地域の魅力をガイドマップやSNSで発信すべく、観光施設等でお話を伺いました。そのうち1日は東海大学のチャレンジセンター・ユニークプロジェクト「阿蘇復興への道」と共に観光支援を行いました。農業支援ではビニールハウスの設営やミニトマトの剪定作業などの活動をしました。

昨年春から開始した南阿蘇村での活動も4度目となり、復興へ向け少しずつ変化していく様子が見られるものの、交通網などを含め完全な復興には程遠いのが現状です。現地の力となれる、そして同世代の学生にボランティアの魅力を感じ、現地に足を運んでもらえるような活動を企画していきます。

06 インドネシアプログラム

活動期間：2018年8月19日(日)～9月1日(土)
参加人数：6名

ヤマウチ 恵凜さん 国際政治経済学部 国際政治学科2年 東京都立戸山高等学校出身



高校でグループごとのディスカッション

ジャカルタ郊外の中学校で教室の壁や黒板の塗装を行い、学習環境の改善を図りました。壁の塗装はなるべく太陽の光を反射できるように明るい色を用いて、損傷が激しかった黒板もきれいに蘇りました。高校生対象の活動ではインドネシアのゴミ処理システムについてディベートの授業を行い、政治的な視点で対策を考えてもらえるよう意識付けをしました。インドネシアでは約76%のゴミがスラム街のゴミ山に積まれ、ポイ捨てなどによる町の汚染も問題になっています。大きな課題でしたが、学校側からも大きな反響をいただき、嬉しく思うとともに、今後も継続して活動していきたいと思います。

相模原キャンパスにボランティアセンターを開設

青山キャンパスに続き、2018年4月、相模原キャンパスにボランティアセンターを開設しました。専属のボランティアコーディネーター1名と学生生活課兼担職員2名で、青山キャンパスのボランティアセンターと協力して運営しています。また、現在は学生センター内に設置されていますが、2019年度からF棟2階へ移設され、学生にとってより利便性の高いボランティアセンターとして、機能を拡充していく予定です。

開室時間

2018年度
学生センター(B棟1階)
9:00～17:00
▼
2019年度～
F205(F棟2階)
10:00～18:00(予定)



地域のお祭りに参加したときの様子

地震・台風等により被災された学生・保証人の皆さまへ

このたびの「大阪府北部地震」、「平成30年7月豪雨（西日本豪雨等）」、「台風21号」、「北海道胆振東部地震」などにより被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

被災地における救助、復旧活動などに尽力されている方々に深く敬意を表しますとともに、被災地の一刻も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

学長 三木 義一

ボランティアセンターでは、大阪府北部および北海道胆振東部地震や西日本を襲った豪雨災害を受けて緊急募金活動を行い、被災地支援活動を行っている非営利・ボランティア団体に寄付いたしました。引き続き、支援活動を行ってまいります。

Pick Up 岡山県総社市への支援

今年7月に豪雨災害に見舞われた岡山県総社市*を支援するため、ボランティアセンターは次のような取り組みを実施しました。

支援物資の提供

災害直後には保存水やウェットティッシュの備蓄物資に加え、土のう袋やスコップなど災害対応に必要な物資を9月20日(木)に提供。備蓄物資を送る際には体育会レスリング部の学生をはじめ教職員野球部、学生生活課職員が協力し、10tトラックへの積み荷を行いました。



災害ボランティアの派遣

夏期休業期間中の8月25日(土)から9月6日(木)まで、2陣体制で計16名の学生が、現地で災害ボランティア活動を行いました。活動内容は漂流物の撤去や泥のかき出し作業、被災家屋の洗浄、小学校のグラウンド整備、支援物資倉庫の仕分け作業など。参加した学生は9月23日(日・祝)の同窓祭で報告会を開催し、現地での体験を語りました。



*本学と岡山県総社市は2014年に包括連携協定を結んでいます。

西日本豪雨災害を中心とした2018年夏のクライシスマッピング報告

毎年のように日本国内で大きな災害が頻発するようになりました。今年は6月の大阪府北部地震から7月の西日本豪雨災害、そして関西国際空港などで大きな被害があった台風21号とその直後の北海道胆振東部地震。それぞれの現場で必要とされる地図をできるだけ最新の状態で、かつ著作権を気にせず自由に使える地図として、各

被災地へ情報提供するクライシスマッピング活動に学生たちと取り組んでいます。

特に、浸水被害の大きかった岡山県倉敷市真備町および総社市では、現地ボランティアと連携し、混乱状態にある道路状況を考慮した支援車両向けルートマップや、避難所・仮設トイレ設置場所等を地図上に展開し逐一更新し、併せて各被災地で他大学と連携しながらドローン空撮を行い、詳細な地図の更新も行いました。

連携先である日本赤十字社や国境なき医師団、その他NPOらの活動状況を共有し、彼らが次に移動する場所について事前に連絡を受けながら、先回りすることで迅速な地図情報を提供できたと思います。8月上旬以降は西日本各地で緊急支援が撤収期限を迎え、被災地の自治体は10月現



各地の自治体と連携し、災害時のドローン空撮を実施しています

在でも復興支援に十分なリソースが割けていません。未来の大災害に備え、そのノウハウを地道に積み重ねるためにも、引き続きこの夏に被災した各地域の復興支援を地図づくりという視点で実施していきたいと思います。

(地球社会共生学部教授 古橋 大地 記)

2018年度 学業成績優秀者表彰

学業成績優秀者表彰は、各学部・研究科に在籍する2年生以上の学生で、

前年度において学業成績が優秀と認められた者に対し表彰し、表彰盾および副賞が授与されます。

2018年度は、下記の学生が表彰され、7月11日(水)に青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて授与式が行われました。

[2018年度 学業成績優秀者表彰 表彰者一覧] ※敬称略

(学部) 最優秀賞

文学部

鵜飼 碧
宮本 恵太
本山 未奈海
北住 悠
比野平 智子
鈴木 瑞樹

教育人間科学部

須田 春花
市川 愛美
川口 佐弥子

経済学部

鈴木 周
伊藤 一那
大塚 悠生
深沢 真穂
生駒 祐衣

法学部

工藤 光大
平山 翔太
望月 爽介
青木 那世

経営学部

大関 和日葉
佐野 貴哉
宮内 優真
荒川 光介

国際政治経済学部

松本 怜
浦上 沙友香
堀池 秀

総合文化政策学部

西川 ゆきえ
平井 はるな
小長谷 萌華

理工学部

太田 陽
川人 礼香
大場 栄一
山田 達司
川崎 真実
高原 英奈

社会情報学部

吉田 すみれ
長田 奈々
藤枝 優香

地球社会共生学部

平松 賢
篠崎 陽
山田 ひより
(以上40名)

優秀賞

文学部

花谷 大河
牧野 智美
小池 菜央
原 奈津子

国際政治経済学部

泉 茉理愛
村木 航
仲川 華子
小楠 有里
實籾 梨紗
石原 晴美

総合文化政策学部

志田 麻緒
二木 佑香
三ヶ尻 奈由
福地 映美

教育人間科学部

内田 早也花
竹内 理緒
渋谷 香澄
安藤 舞生
関 愛伶奈
吉田 侑生

経済学部

内藤 伊玖真
直井 慧
奈良 千尋
石田 美咲来
末田 浩基
北岡 志穂
根岸 里花
面高 美優
近藤 未歩
齋藤 希実子

法学部

安藤 美穂
大廣 和弘

地球社会共生学部

小松 美凜

前川 陽香

中秋 源見
鈴木 南穂
米津 友里加
金子 夏望
榊原 芙侑

経営学部

河井 啓太
児玉 佳奈子
城 のどか
郷 雨函
瀬田 愛
楠瀬 陽己
畠田 佳奈
北川 愛莉

国際政治経済学部

泉 茉理愛
村木 航
仲川 華子
小楠 有里
實籾 梨紗
石原 晴美

総合文化政策学部

志田 麻緒
二木 佑香
三ヶ尻 奈由
福地 映美

理工学部

相馬 孝則
村田 大地
坂田 浩一
野々下 大輝
小野 光穂
森川 桜子
齋藤 達也
吉森 大二郎
二橋 利仁
村田 健悟

社会情報学部

小川 舞佳
塩澤 大輝
金谷 智恵
岡田 萌希

地球社会共生学部

小松 美凜

堀内 香子

永井 智子
真宗 美帆
(以上72名)

理工学部

関口 景太

法学部

五十嵐 遥香
原田 淳平
渡辺 美音
金澤 実季
久間 颯彦
佐々木 美也子

経営学部

松川 菜乃
江場 日菜子
小山 明里
山本 麻央
藤井 さやか
高野 真子
長谷川 真那
青葉 大輔
中村 理沙
松井 優奈
伊藤 真由
小池 祥子

教育人間科学部

浅野 まどか
千葉 遥加
今井 海月
木藤 成美
四方 ミノリ
松崎 亜耶
遠矢 観月
古川 莉央奈
鈴木 優花

経済学部

青野 翔
上條 舜也
鈴木 克実
藤本 真里奈
大澤 愛実
小林 真実
高橋 恵璃
初山 慎司
加々美 信吾

国際政治経済学部

内山 かおり
星野 紗矢香
嘉藤 美里
柳沼 大輝
戸野 世奈
太田 千裕
杉岡 朋美
下田 真里衣
鈴木 愛純

総合文化政策学部

林 聖夏
福地 桃子

加治屋 有紗

箱崎 響
平野 実乃里
伏見 啓正
室屋 碓瑚

理工学部

関口 景太
五十嵐 遥香
原田 淳平
渡辺 美音
金澤 実季
久間 颯彦
佐々木 美也子

経営学部

松川 菜乃
江場 日菜子
小山 明里
山本 麻央
藤井 さやか
高野 真子
長谷川 真那
青葉 大輔
中村 理沙
松井 優奈
伊藤 真由
小池 祥子

教育人間科学部

浅野 まどか
千葉 遥加
今井 海月
木藤 成美
四方 ミノリ
松崎 亜耶
遠矢 観月
古川 莉央奈
鈴木 優花

国際政治経済学部

内山 かおり
星野 紗矢香
嘉藤 美里
柳沼 大輝
戸野 世奈
太田 千裕
杉岡 朋美
下田 真里衣
鈴木 愛純

総合文化政策学部

林 聖夏
福地 桃子

市倉 大輔

坂本 明穂
辻 瑛里
渡邊 菜摘
室屋 碓瑚

理工学部

関口 景太
五十嵐 遥香
原田 淳平
渡辺 美音
金澤 実季
久間 颯彦
佐々木 美也子

経営学部

松川 菜乃
江場 日菜子
小山 明里
山本 麻央
藤井 さやか
高野 真子
長谷川 真那
青葉 大輔
中村 理沙
松井 優奈
伊藤 真由
小池 祥子

教育人間科学部

浅野 まどか
千葉 遥加
今井 海月
木藤 成美
四方 ミノリ
松崎 亜耶
遠矢 観月
古川 莉央奈
鈴木 優花

国際政治経済学部

内山 かおり
星野 紗矢香
嘉藤 美里
柳沼 大輝
戸野 世奈
太田 千裕
杉岡 朋美
下田 真里衣
鈴木 愛純

総合文化政策学部

林 聖夏
福地 桃子

社会情報学部

榎田 翔太
澁谷 光
小田島 美咲
佐竹 美奈子
平位 汐里
山田 佑介

地球社会共生学部

鮎澤 倅生
中川 詠美子
浅見 玲那
総谷 明帆
中尾 彩音
橋田 実香
(以上108名)

(大学院)

最優秀賞

文学研究科

根本 蔵人
橋本 享子
増田 翔太

教育人間科学研究科

井村 昌子
宮尾 正恵

経済学研究科

西山 有紀子
法学研究科
荒川 弘光
船橋 信正
細川 愛美

経営学研究科

松田 佑馬
国際政治経済学研究科
Crenshaw Nicholas Evan
入田 信二
岡田 幸子

総合文化政策学研究科

丸山 信人
理工学研究科
加藤 誠也
安藤 早紀
小池 遼
石井 凌賀
長谷川 大介
齋藤 智広
青木 琢也
丹羽 夏輝
川久保 雄太
武田 真和

社会情報学研究科

及川 雄太
古屋 由美
国際マネジメント研究科
Hu Changwu
岩田 貴裕
太田 雄治
下村 俊樹
鈴木 和隆
寺田 陽子
西垣 一成
宮本 大輔

会計プロフェッション研究科

小島 春奈
塩谷 真生
芦田 祥輝
(以上37名)

特集 海外留学

青学から世界へ、留学の夢をサポート

本学では学生が籍を置いたまま休学せずに約1年間、海外の大学で学べる在学留学制度をはじめ、さまざまな留学の機会を設けています。ここでは長期留学の制度とともに、協定校留学やインターンシップを経験した学生たちのメッセージをご紹介します。

✈ 長期留学

協定校留学(派遣交換留学)

本学と海外の大学との学生相互交換協定に基づき、学生を派遣し合う制度です。出願資格を満たし、学内の書類審査および面接による選抜に合格することが必要で、本学に学費を支払うことで、協定により留学先大学への授業料は免除されます。

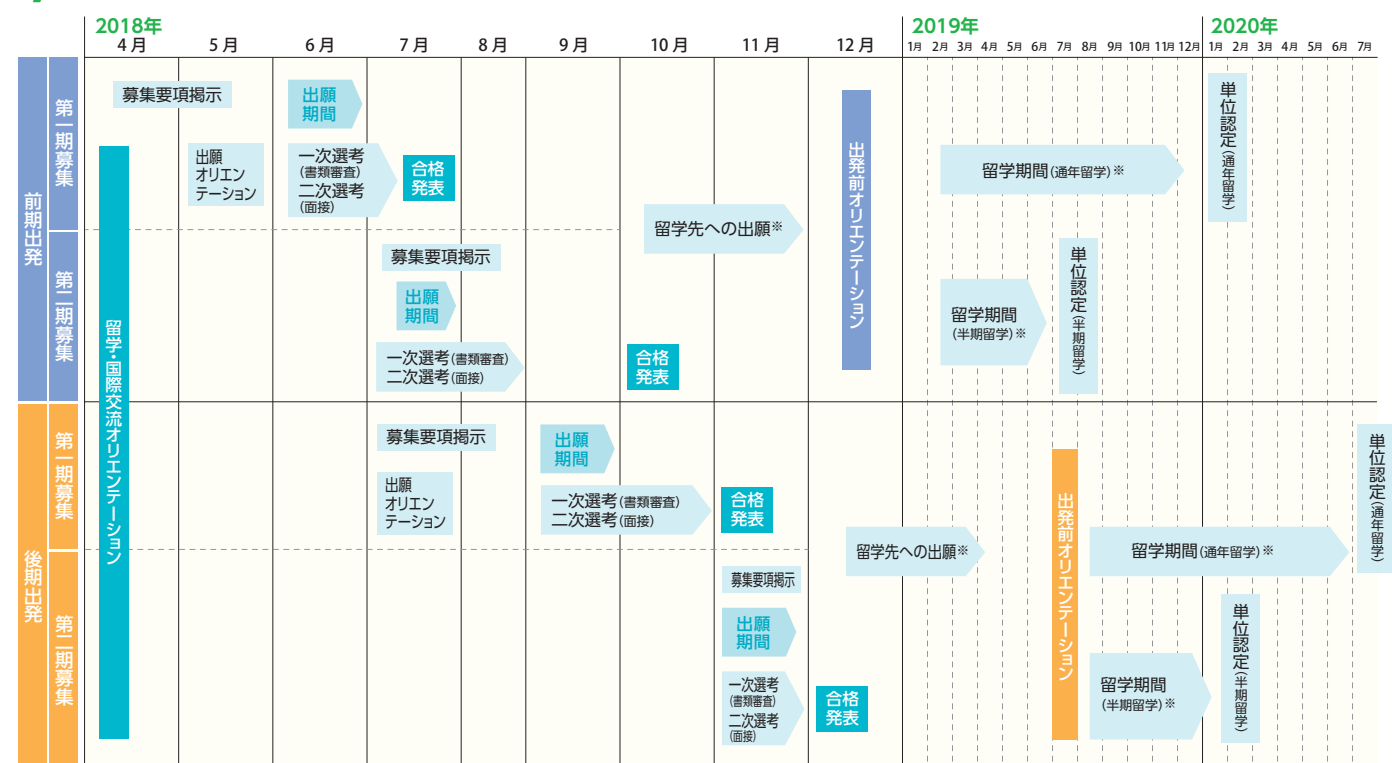
●一部協定校へは私費留学も可能。

認定校留学

学生自身が事前に留学を希望する学位授与権を有する大学または高等教育機関の入学許可を取得した上、本学に認定校留学の申請をし、認められた場合に留学できる制度です。ただし、本学および留学先にも学費を支払う必要があります。

✈ 留学準備スケジュール(協定校留学)

留学準備スケジュールの日程は2018年度のものです。



前期出発 ■第一期・第二期募集共通 **アジア** 韓国・ミャンマー **英語圏** オーストラリア
 ■第一期募集のみ **ヨーロッパ** フランス(フランシュ・コンテ大学応用言語学センター) ■第二期募集のみ **英語圏** 協定校留学(私費)

後期出発 ■第一期・第二期募集共通 **アジア** 中国・台湾・ベトナム・タイ・ブルネイ・マレーシア・モンゴル・インドネシア・インド **英語圏** カナダ・アメリカ・イギリス・アイルランド
中南米・ヨーロッパ メキシコ・フランス・スイス・ドイツ・スペイン・ハンガリー・ポーランド・ロシア・フィンランド・イタリア
 MISEN※1/ACUCA※2
 ■第二期募集のみ **英語圏** 協定校留学(私費)

※1 Methodist International Student Exchange Network
 ※2 Association of Christian Universities and Colleges in Asia

✈ 留学サポート制度

本学では単位認定制度や継続履修制度、給付奨学金制度を設けています。

■ **単位認定制度** 留学先の大学で修得した単位を、留学終了後、本学の単位に振り替える制度です。

■ **継続履修制度(後期出発の場合)** 留学前(前期)に履修登録をした通年科目を、帰国後(後期)に継続して履修することが原則として認められる制度です。

■ **給付奨学金制度** 青山学院大学産学合同万代外国留学奨励奨学金★や、青山学院国際交流基金奨学金、(独)日本学生支援機構 海外留学支援制度(協定派遣)奨学金などがあります。

★青山学院大学産学合同万代外国留学奨励奨学金

海外留学を志す本学学生を対象として、本学と株式会社太平エンジニアリングが合同で学業資金として奨学金を給付することにより、経済的負担の軽減と外国留学の奨励を目的としたもの。(2018年度：実績年額25万～100万円) ●留学形態および所属学部による。

詳細は、国際センター ウェブサイトをご確認ください。 <http://web.iec.aoyama.ac.jp/>

協定校留学

音楽と舞台を組み合わせた小学校教育に挑戦、今の「世界」から「より広い世界」へ



アメリカ | ジョージア州
LaGrange College※
 2017年8月～2018年5月

木土 百華子さん

教育人間科学部 教育学科3年 埼玉・私立浦和明の星女子高等学校出身

大学入学当初から、小学校教育に音楽や舞台芸術を組み合わせた教育ができないうと興味を持ち考えていました。そこで留学先の希望について大学に相談したところ、LaGrange Collegeの科目や教



子どもたちに算数の図形を折り紙で教えると、興味津々でチャレンジ

員を紹介していただきました。現地では、日本で経験できない内容の授業を中心に履修しました。その中でも伝記、社会問題なども演劇やミュージカル仕立てで行う授業は大変面白く、小学校でワークショップを行い、子どもたちにも体験してもらいました。コミュニケーションの手段として音楽や舞台芸術を利用することで、子どもたちの理解が速いように感じられました。アメリカの授業は、ほとんどが苦手なグループワークでしたが、成功経験を重ねることで深い学びにつなげることができました。

留学への決断は大きなものですが、今回のさまざまな出会いを通じて得た経験は何物にも代え難く、以前よりも視野が広がりました。

木土さんが紹介！

LaGrange College

アメリカ南部ジョージア州の静かな町にあり、バスや電車もありません。周囲の力に助けられ、人の優しさに敏感になれる、そんな素敵な場所です。都会で大学生活を送っている青学生だからこそ、行ってみたい大学です。

※MISEN加盟校

海外インターンシップ

知識だけでなく、積極性も身に付いたインターンシップ



オーストラリア | シドニー
WEIGHBRIDGE LAWYERS
 2018年2月～3月

仲川 華子さん

国際政治経済学部 国際経済学科3年 DARFIELD HIGH SCHOOL出身

漠然と将来は海外と関わる仕事がしたいという思いがあり、海外インターンシップに参加しました。これまで学んだ移民について興味があったことや、求められる英語力も高いことから、法律事務所のWEIGHBRIDGE LAWYERSを研修先に選びました。しかし法律に関する知識がなかったため、オーストラリアの移民受け入れの現状、移民に関する法律を事前に調べて研修に臨みました。仕事内容は主に法律のリサーチと要約、接客、電話応対でした。リサーチは専門用語が多く大変でしたが、移民が多いオーストラリアのビザの

種類なども知ることができました。分からないことは周囲にすぐに質問したことで、知識が増えるだけでなく積極性が身に付き、上司とのコミュニケーションも広がり、良い信頼関係を築くことができました。



インターンシップ先の上司と

今回の経験で英語圏で働くことの大変さと、楽しさを知りました。自分の成長を実感でき、海外と関わる仕事がしたい気持ちがさらに強くなりました。

仲川さんが紹介！

WEIGHBRIDGE LAWYERS

シドニー市内にある法律事務所で、主に移民に関する法律を扱っています。顧客はインドネシア人が中心で、インドネシア語と英語が飛び交っています。ショッピングモールや駅が近くにあり立地は良く、勤務後に出かけることもできます。

スコットランド政府 文化・観光・対外関係大臣を表敬訪問

2018年7月3日(火)、三木義一学長は東京・半蔵門にある英国大使館に赴き、来日されていたスコットランド政府 文化・観光・対外関係大臣のフィオナ・ヒスロップ氏(Cabinet Secretary Ms. Fiona Hyslop)を表敬訪問しました。

本学は5月にスコットランドのスターリング大学と、学生交換協定を締結しました。1967年に創立されたスターリング大学のメインキャンパスは「世界で最も美しいキャンパス」とも評されています。スコットランドの大学と本学との協定締結は、今回が初めてとなります。

終始穏やかな雰囲気の中、本学やスコットランドに関する意見交換が行われ、今回の協定締結を機に両者の発展のため相互に協力し、引き続き交流が深められるよう確認し合いました。



フィオナ・ヒスロップ氏(左)と三木義一学長

NHK-BS1「最後の講義」に福岡伸一教授が出演し、収録が行われました

「もし、今日消えてしまうという前提で最後の講義で学生に伝えたいとしたら」というテーマで、「生命とは何か?」について総合文化政策学部の福岡伸一教授が講義を行いました。少年の頃、虫が好きなどから研究者への道がスタートした福岡教授。生物学の研究を進めていく中で、生命が、絶え間ない流れの中で合成と分解でバランスをとっている「動的平衡」に着目し、文系的視点でも生物学を幅広く研究していくようになります。例えば、「狂牛病」「脳死・脳始」というのは、人間の勝手な行いで生命の動的平衡を壊していくことによりできあがっているというテーマのお話は印象的でした。この講義を通して、福岡教授は「生命とは何か?」の問いに3つ答えます。「生命は機械ではない、生命は流れだ」「1年前の自分は別人である」「命に力を向けた人間。これからは、むしろAI的なアルゴリズム思考とは異なった、動的平衡の世界観を持つことが重要だと語りました。そして、生命の動きを表すものに絵画

があり、オランダの画家フェルメールについて熱く語り、学生からの答えきれないほどのたくさんの質疑に丁寧に回答し、盛況のうちに講義を終えました。(2018年8月19日(日)に放送済み)

2018年7月28日(土) 青山キャンパス 9号館940教室にて



地球社会共生学部 岡部篤行教授が国際地理学連合「桂冠名誉賞」を受賞



受賞した岡部篤行教授(左)

2018年8月10日(金)、カナダのケベックで開催された国際地理学連合(International Geographical Union: 以下IGU)において、地球社会共生学部の岡部篤行教授が「桂冠名誉賞」(Laureat d'honneur awards)を受賞しました。

1922年に設立された地理学に関する世界最大規模の学術連合であるIGUの桂冠名誉賞は、国際的規模で地理学の発展に貢献し、また同連合の活動に顕著な役割を果たした人に与えられる賞です。岡部教授は、これまでにIGUの日本国委員会、数学的モデル研究委員会、国際地理情報科学会議、欧州地理情報研究室連合に大きな貢献を果たしました。またIGU京都国際地理学会議の組織化や日本の地理情報システム学会の組織化にも大きな役割を果たし、アジアの地理情報学会を含む国際的な学術交流を大きく推進しました。これまでに11の国際的地理学術誌の編集長や編集委員を務め、著書には、6,000以上の国際学術誌で引用されている『Spatial Tessellations』、ワールドブック賞を得た『Islamic Area Studies with GIS』、地理的分析の新開地となった『Spatial Analysis along Networks』などがあります。

「イノベーション・ジャパン2018」に初出展

本学は2018年8月30日(木)・31日(金)に東京ビッグサイトで開催された「イノベーション・ジャパン2018～大学見本市&ビジネスマッチング～」に、初めて出展しました。大学見本市は、大学等からの研究成果の社会還元、技術移転を促進するとともに産学連携を支援するための研究開発成果の見本市です。会場は「JSTセミナー」「大学組織展示(プレゼンテーション、ブース)」「大学等シーズ展示ブース」から構成され、開催されました。

「大学組織展示」では58大学が出展し、大学と産業界との間での新たなパートナーシップの創造、価値の創出を目指しました。本学は、理工学部経営システム工学科の熊谷敏教授らによる「次世代ウェルビーイング(ヒトのIoT)～個別適合をめざした統合的人間計測・モデル化技術の構築」と、理工学部長の長秀雄教授によるプレゼンテーションを行いました。

「大学等シーズ展示」では、国内157の大学等が400件にのぼる研

究成果を出展しました。本学は理工学部電気電子工学科から、浏览悟准教授の「広帯域幅を有する近赤外LED光源を用いた農業／医療用評価装置」と、黄晋二教授の「原子1層のグラフェンを用いて作製した透明アンテナ」(共同研究者:橋本修教授、須賀良介助教)について展示しました。

各ブースには、研究内容について熱心に質問される方が多くいらっしゃり、有意義な機会となりました。



AGU Lecture 090



当ゼミナール(ゼミ)はコミュニケーションから教育政策まで多様なジャンルを扱っているのが特色で、ゼミ生それぞれの興味に合わせた研究ができるようにしています。例えば、テレビドラマやコマーシャル、コミュニケーション、新聞記事、ネット社会をテーマに分析するなど分野が多岐にわたります。中にはLGBTやeスポーツ、ネットニュースといった最先端の研究をしたり、学会で発表をする学生もいます。私自身のアナウンサー、英語教員、大学院の開学に携わった社会人としてのこれまでの経験や、バックグラウンドの多様さから、ゼミ生たちの研究対象もおのずと広がったのかもしれません。チャレンジ精神旺盛なゼミ生が多いため、なるべく細かいルールは設けず、興味のあることを伸び伸びと、そして集中して研究できるような指導を心がけています。

各業界の企業見学も進んで行っています。これまでにテレビ局や新聞社などさまざまな会社を訪問しました。学生たちには現場を見て、さらにそこで働く社員の方たちの話を聞くことで、実社会に存在する問題を身近に感じ、考える力を養ってもらいたいと思っています。また、社会に出れば、必ず誰かと協力しながら仕事を進めていかなければいけません。それを踏まえ、学生が互いの個性を尊重し、おのおのが得意分野でリーダーシップをとりながら、地球社会共生学部の教育テーマの一つである「共生」を醸成できるような環境づくりにも配慮しています。



コミュニケーション、メディア、言語習得、言語政策、教育政策

菊池 尚代

地球社会共生学部 地球社会共生学科准教授



菊池ゼミ学生
竹中 美貴さん
地球社会共生学部
地球社会共生学科4年
東京・私立桐朋女子
高等学校出身

新しい学部でゼロから創る学生生活に魅力を感じ、地球社会共生学部1期生として入学。菊池ゼミを選んだのは、発信する立場であるマスコミで働きたいという夢があり、先生のご経験や仕事への思いをお聞きして、こんなに情熱を持った先生のもとで学びたいと思ったからです。ゼミ運営にも学生が積極的に関わってきました。後輩たちには、私たちの経験を研究や就職活動で役立ててもらえるようサポートしています。また、ゼミではたくさんの企業を見学し、幅広い業界の現場を目にする機会に恵まれ、貴重な経験でした。こうした実践的な学びと並行して行われたマスコミ体系に関する著書の輪読では、ゼミ生の多彩なプレゼンの切り口に学ぶことも多くありました。私は現在、海外報道における日本のイメージ研究や米国メディア・日本メディアと政治の関係性の研究をしています。卒業後は内定をいただいている新聞社で記者として、臆することなく未知な環境にも飛び込んでいきたいです。

菊池ゼミには好きなことを極めたいと考える学生が集まるので、積極的に参加するほど自らも成長できます。後輩たちにはゼミを盛り上げてほしいです。

青山学院大学後援会報告

決算・予算報告

後援会は、本学の教育・研究に必要な事業を援助するために設立された支援団体です。在学生の保証人とその他有志が会員となり、会員から拠出される会費（在学生保証人分は学費に含まれています）をもって、課外活動や奨学金、傷害保険への全学生加入といった学生支援およびペアレンツウィークエンド（地区父母懇談会）の開催など、多岐にわたる活動を行っています。毎年度の事業内容は年1回開催の評議員会（総会）で審議・決定されます。このたび、2017年度決算と2018年度予算が承認されましたので、ここにご報告いたします。

学友会活動補助としては、昨年同様、陸上競技部等強化指定部をはじめ、学友会に所属する多くの団体を支援しております。内容は、勝ち進んだことにより上位大会に出場を果たした際の予期せぬ宿泊、交通費等や、10年を経た相模原キャンパス課外活動施設を中心に、各所の老朽化に伴う機具、備品等の修理・補修および購入、また積年の懸案であった弓道場建設のための準備金等に充当しております。

さらに、学内の安全面を考慮した夜間照明の照度アップを含む、セキュリティ対策の強化や、学生からの要望が多い温水洗浄機能付きのトイレへの改修、また学生の憩いの場としてのスペースの確保とベンチ等の設置を中心に、充実した学内教育環境の整備を支援しております。

ボランティア活動補助につきましては、ボランティアアセンター開設により年々活動の幅が拡大しており、西日本を中心とした「平成30年7月豪雨」の被災地に対しても既に救援物資の調達、発送の手配をいたしました。また、夏期休業期間中の学生ボランティア等の派遣に際して、状況によって予備費から補填いたしました。

好評をいただいている「100円朝食」は、今年度も青山・相模原各キャンパスの学生食堂で2018年4月9日(月)～5月25日(金)の29日間、午前8時から実施されました。準備された朝食は期間中合計7,950食で、実際の提供食数は6,849食(提供率86.1%)でした。メニューは学生のニーズに加え、健康面でもサポートできるよう米飯食とパン食が交互に提供され、後援会より1食あたり200円の補助を行い、100円朝食を実施することができました。学生からは、継続的な実施を望む感想が寄せられました。

オックスフォード大学の名誉総長に青山学院大学名誉博士の称号を授与

本学は2018年10月25日(木)、青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて、オックスフォード大学の名誉総長クリス・パッテン卿(The Rt Hon Lord Patten of Barnes, CH)に青山学院大学名誉博士(国際政治学)の称号を授与しました。

クリス・パッテン卿は、政財界において格別に広範囲でかつ多様な公務を歴任、世界的に主要な問題を取り上げた多数の著書を執筆、困難な時期に学術機関への一貫した支援をされるなどの偉大な功績をあげました。また、式典後は「The 21st CENTURY—so far not so good」と題して講演会を行い、「今後も、より良い世界にするための大学の役割は大きく、特にこれからの世界をつくる若い世代の能力を育てる場として、大学間で協力していく必要がある」と語りました。

2018年度 予算

収入の部				(単位 円)
科 目		金 額		
前 期 繰 越 金		30,390,276		
会 友 費 収 入		144,676,000		
貸 付 金 回 収 収 入		1,000,000		
合 計		176,066,276		

支出の部				(単位 円)
科 目		金 額		
学 生 活 動 関 係				
学 友 会 活 動 補 助		40,000,000		
学 友 会 活 動 指 導 補 助		13,160,000		
保 険 料		19,258,350		
奨 学 金 事 業 補 助		12,000,000		
大 学 行 事 補 助		1,164,226		
アドバイザー・グループ会合費補助		515,000		
教 育 環 境 整 備 補 助		50,000,000		
奨 励 金		500,000		
就 職 活 動 補 助		5,981,040		
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 補 助		2,866,445		
学 生 生 活 補 助		1,590,000		
後 援 会 行 事 関 係				
ペアレンツウィークエンド費		16,028,245		
旅 費 交 通 費		60,000		
会 議 費		1,060,735		
消 耗 品 費		0		
通 信 費		19,100		
そ の 他				
慶 弔 費		130,000		
【 予 備 費 】		963,604		
支 出 計		165,296,745		
次 期 繰 越 金		10,769,531		
合 計		176,066,276		

問い合わせ先 庶務部庶務課 TEL：03-3409-8568

総合文化政策学部 創設10周年記念トークイベント 対談〈坂本龍一×福岡伸一：音楽・生命・時間〉を開催

2018年10月8日(月・祝)、「総合文化政策学部 創設10周年記念トークイベント 対談〈坂本龍一×福岡伸一：音楽・生命・時間〉」を、青山キャンパス17号館本多記念国際会議場で開催しました。

このイベントは2018年4月に創設10周年を迎えた総合文化政策学部が、2018年度の1年間にわたって展開中のイベントの一環として開催しました。日本を代表する音楽家で、最近では近代の枠組みを超えた根源的な音楽のあり方を追求している、坂本龍一氏をお迎えし、総合文化政策学部の福岡伸一教授との対談を行いました。

当日は、在学生や校友、一般の方々など多くの来場者があり、会場は満席となりました。ニューヨーク在住の坂本氏が、今回東京に来る前に仕事で立ち寄った韓国の釜山で台風25号に遭遇したというお話に始まり、和やかな雰囲気の中、テーマである「音楽・生命・時間」について、ロゴス(理性・論理)とフィシス(自然・ありのまま)を軸に音楽と生物学について、それぞれの視点から見解や展望をお話いただきました。



青山学院大学教育振興資金

保証人の皆さまのご支援を教育研究環境の改善につなげます。

日頃より青山学院大学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、本年6月に募集いたしました2018年度の「青山学院大学教育振興資金」に対して、過分なるご寄付をいただきまして誠にありがとうございます。これもひとえに、同振興資金募集の趣旨をご理解いただいた上でのご支援の賜物と存じます。

2018年度は、前年度に引き続き、教育研究環境の充実に向け、アカデミックライティングセンター運営の充実、サービスマーケティングの展開、就職支援の充実など、学習環境および生活環境の一層の改善に取り組んでおります。
この場をお借りして御礼申し上げますとともに、ご寄付くださった皆さま方のご芳名を本誌に掲載させていただきます。

ご芳名掲載対象者 226名 (ご芳名掲載者 75名 匿名者 151名)

ご芳名掲載対象期間 2018年4月1日から9月5日までのご寄付者、2017年度ご寄付者(追加掲載者1名)

あ	相澤 啓司 様	影山 京子 様	小山 貴之 様	ち	千葉 純司 様	ひ	平山 京子 様
	青木 哲夫 様	加藤 武 様	近藤 重樹 様	つ	津田 不二夫 様	ふ	福田 澄幸 様
	天野 邦彦 様	金子 彰良 様	坂上 靖 様		椿 範立 様		福永 寛 様
	荒井 宏武 様	金子 浩純 様	坂口 進 様		坪井 良彰 様		福森 まき 様
い	飯田 和信 様	川口 敏男 様	芝田 貴裕 様		津山 克彦 様		藤岡 輝好 様
	石井 崇司 様	川村 広視 様	清水 健司 様	な	永井 峰男 様		藤崎 豊彦 様
	石井 友晴 様	神田 光将 様	菅 浩之 様		中園 孝徳 様	ま	松尾 高則 様
	岩井 隆司 様	菅野 忠臣 様	杉本 宏綱 様		中ノ瀬 高広 様		松本 俊之 様
え	江畑 雅明 様	き	杉本 良雄 様		中山 振一郎 様	も	門田 隆太郎 様
	大浦 雅之 様		鈴木 一也 様		並木 光二郎 様	や	安井 朝輝 様
	大草 華之 様	く	鈴木 隆幸 様	に	新田 睦明 様	よ	横地 眞 様
	大谷 千鶴 様		鈴木 勇人 様	は	橋本 達矢 様		吉田 武司 様
か	岡田 明宏 様	た	高村 忠武 様		長谷川 俊也 様		吉田 博史 様
	小倉 俊彦 様	こ	滝嶋 直樹 様		馬場 信治 様		吉野 武門 様
	鹿毛田 宣彦 様		帯刀 功一 様		濱田 雅晴 様	わ	渡部 弘幸 様
							(五十音順)

※ご芳名掲載の意思表示は「教育振興資金ご寄付のお願い」に同封の振込用紙にて依頼しております。希望されない方、意思表示のない方、また、銀行のATM、インターネットバンキングを利用してご寄付され、意思確認ができない方につきましては、匿名で掲載させていただきます(今回匿名掲載された方で、ご芳名掲載を希望される場合は、庶務部経理課までお知らせください。次回掲載させていただきます)。

問い合わせ先 庶務部経理課 E-mail : agu_supporters@aoyamagakuin.jp

クリス・パッテン卿

「万代基金」を創設しました

「万代基金」への寄付金は、給付型奨学金(フィナンシャル・エイド)と教育研究資金(AOYAMA VISION)に充当いたします。今回は給付型奨学金について、ご報告いたします。2017年度は、皆さまのご寄付により、412名の生徒・学部生・大学院生に対して総額約8,400万円の奨学金を給付することができました。心より感謝申し上げます。

女子短期大学・大学・大学院の学生一人あたりにすると、約203,000円の支給額になります。この金額は、仮に時給1,000円のアルバイトに換算すると200時間以上にあたります。学生にとっては、その時間を勉強や部活動などの時間に充て、より充実した学生生活を送ることができるようになります。

受給している学生から、感謝の声が寄せられています

[奨学金受給学生からのメッセージ]

AI時代でも、
活躍できる通に

文学部 英米文学科3年
岡野 健人

生活に余裕ができて、さまざまな価値観を吸収できるようになりました。



笑顔のあふれる
社会をつくりたい

経済学部 経済学科2年
古村 花織

奨学金によって、いろいろなことにチャレンジできるようになりました。



資料請求・
問い合わせ先

青山学院 学院連携本部
TEL : 0120-900-420(フリーアクセス) FAX : 03-3409-3890
E-mail : ag-info@aoyamagakuin.jp

≫インターネットからのご寄付も可能です。

青山学院 募金

検索



Club & Circle 41 理工茶道部

季節の趣向を凝らした茶席を通じ、作法を身に付ける。

理工茶道部は相模原キャンパスを拠点に活動する、裏千家の茶道部です。理工と名前にありますが、どの学部の学生も、もちろん入部することができます。

稽古は、週1回水曜日に外部の茶道教室から先生を招いて行う本格的なものです。このほかに年2回の合宿、学外や相模原祭で開催する茶会などもあります。今年度の相模原祭では「秋麗茶会」と題し、部員たちは日頃の稽古の成果を披露しました。

当クラブは裏千家関東学生茶道研究会に所属しており、他大学との交流も盛んです。2017年12月には東京国立博物館の庭園内茶室「九条館」にて、首都大学東京、武蔵野大学、明治大学と「雪の女王」をテーマに合同茶会を行いました。

この1年、部長を務める中でさまざまな方とコミュニケーションを取る機会に恵まれ、大切な仲間がたくさんできました。当クラブは茶道未経験者が大半ですが、お互いに学び、教え合うことで知識や作法を身に付けることができます。茶道に興味がある方、和室の匂いが好きな方、和菓子が大好きな方など、ぜひ理工茶道部の戸を叩いてみてください。

(部長：理工学部 経営システム工学科3年 浅井 徹 記)



AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。

- 最新号からバックナンバーまで、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
- 確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きを**してください。



●2018年11月30日発行●